

ボランティア派遣

プロジェクトの背景

JHP設立以前の1991年に、小山内代表が湾岸戦争後のイランのクルド難民救援に参加。ここで初めて大学生と活動を共にし、その成長する姿を見たことがきっかけとなり、地球的視野を持つ若者を育成する事業を開始。これまで、海外は、カンボジア、旧ユーゴ、アフリカ、インド、ボスニアなど、国内は、阪神淡路大震災、日本海重油災害、中越地震、三宅島帰島、東日本大震災、熊本地震などの救援活動にボランティアを派遣している。

社会人参加の活動

学校を寄贈していただいた企業/個人/団体の皆様が、定期的に学校を訪問しております。JHPでは訪問計画に合わせて都度学校側と調整を行っています。



カンボジアキャンプ 2月10日～16日

VOICE

ブンブリアオン小学校、キリングフィールド、CCH訪問と充実したキャンプでした。小学校ではペンキ塗りや、ピアノや文房具の寄贈を行いました。ピアノに親んでもらおうと「アラビヤ」を演奏することにしましたが、大人になってからの楽器は生易しいものではなく、寝る間も削って特訓しました。その甲斐あって、子供達も楽しそうに演奏を聞いてくれて嬉しかったです。一緒にペンキを塗ったり遊んだり、言葉の壁を超えて交流ができ、少しは子供達の心に残れたかなと思います。

次に行くまでに、クメール語を話せるようになりたいです。

宮脇加奈子(写真左)



アフリカへ毛布をおくる運動

JHPは33年目を迎えたアフリカへ毛布をおくる運動推進委員会の構成団体として活動しています。この間アフリカ27か国へ合計411万7千枚の毛布を送ることができました。2016年に集められた毛布の枚数は24,688枚、輸送協力金は24百万円に達しました。

アフリカには内戦や難民、自然災害の被害を受け毛布を必要としている人々が多数います。JHPは本年もボランティア1名を毛布配布隊に派遣しました。



VOICE

私達は4月24日から5月3日までアフリカ毛布配布ボランティア隊としてマラウィ共和国に行ってきました。スタッフ6名を含む立正佼成会(RKK)19名JHPから私達2名の21名での隊です。マラウィ赤十字社の協力のもとに2,153枚の毛布を配布できました。

毛布配布では貧困の中精一杯暮らしている人々の厳しさが痛いほど胸に響きました。

また、HIV・エイズ撲滅事業を進めている聖エジディオ共同体では、自らもエイズ患者でありながら他のエイズ患者をサポート活動している皆さんに心を動かされました。

一枚の毛布が明日へ繋ぐための生きる力となり希望となっていることを知りました。

今回貴重な体験をさせて頂き今後はこの体験をいかしアフリカに毛布をおくる運動の活動に協力してまいります。



鈴木信明(写真左)

曾田みふゆ(写真右)